

No.95 2014. 7. 26 ^{あおじゅかい} 会報「青樹会」 会報事務局 〒252 0201
中国内モンゴ沙丘・草原緑化研究会 相模原市中央区上矢部 2-14-6
代表 押田 敏雄 押田 敏雄 方(事務局長代行)
(Tel & Fax 042-776-2040) (Tel 042-769-1641 Fax 042-768-2612)
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~aojukai/> e-mail:ryokka@azabu-u.ac.jp

1. 「2014 春ツアー帰国報告会」 + 「総会」 + 「夏ツアー説明会」を開催



6月15日(日)の14時から、田中八重洲ビル会議室において、2014春ツアー帰国報告会、2014年度総会、2014夏ツアー説明会を兼ねた集まりを開催しました。参加者は中村(民)、中村(千)、西、野上、石川、窪田(定)、窪田(誠)、立野、中川、近田、岡田、鈴木、樋川、押田(照)、押田(敏)の15名でした。窪田(定)は窪田さん、窪田(誠)は窪田さんの御子息で都内在住の誠司さん、押田(照)は押田先生のご婦人の照子さんです。

I)春ツアー帰国報告会:ツアーの内容は会報94号(5月19日発行)に記載した通りです。また、ナスハンの小学校への奨学金の可能性についての報告もなされました。

II)2014年度総会:主な決定事項として、①ウーランアオジュ村の緑化事業は今年度を持って終了する。②20年間実施してきた青樹会活動記録を整理して冊子として刊行し、会員に配布する。③ナスハン小学校への奨学金については、奨学金原資が確保できないことから、実施しない。などが確認・決定されました。

III)夏ツアー:毎回のことですが、集客が難しかったのですが、今回は西、野上、石川、窪田(定)、窪田(誠)、立野、都築、近田、岡田、中川、樋川、押田夫妻の13名が参加することとなりました。なお、中国国内からも確認されている情報で4名が参加の予定となっています。

説明会後の恒例の懇親会は「日本海庄や」で行ない、楽しい時間を過ごしました。



左から 窪田(定)、窪田(誠)、岡田、押田(照)、樋川、中村(民)



左から 中川、立野、中村(千)、野上、近田



西 代表



押田先生



日本海庄や にて

2. 「2014年総会」報告

総会の当日に配布した資料(抄)を再掲載致します。意見や疑義がある場合には事務局代行(押田)までご連絡下さい。

<平成25年度(2013年度)会務報告> 2013.4.1~2014.3.31

1. 概要

行動は言葉よりも雄弁だ。日中両国とも、互いを挑発的するような動きには事欠かない。昨年11月には中国が尖閣諸島(中国名:釣魚島)を含む東シナ海上空に防空識別圏(ADIZ)を一方向的に設定し、翌12月には、安倍首相が靖国神社の参拝に踏み切った。

ただ、応酬はエスカレートしても、両国のにらみ合いが軍事衝突に発展する可能性は依然として極めて低い。中国が日本との経済関係を根本から台無しにすることは考えられず、実際に地方当局者レベルでは、日本からの投資誘致への関心の方がはるかに強い。そして日本も、一部企業には「脱中国」でリスクを回避する動きがあるものの、巨大な中国市場での日本企業の成功を景気回復のカギとみていることに変わりはない。日中関係が沸点に達する可能性は低く、両国間の緊張関係は小康状態と言える。

さて、我々が支援している烏蘭敖都村の様子はどうか。村には自家用車が数多く見受けられ、反対にマーチャ(馬車)が減ったのが実感として感じられる。作業用にマーチャを調達することが容易では無くなりつつある。普段はお金が無いと言いつつも、子供の結婚には家を改築したり、大金を費やして盛大なイベントを行うことも珍しくはなくなってきた。

25年度は少数の参加ながら春と夏のツアーを実施することも叶った。

平成25年度に実施した主な緑化事業は次のとおりである。

ア、「日立の森」建設

イ、個人植林地造成への援助(対象1戸)

ウ、オボ山と周辺の植樹

エ、305号線ウリジ氏の沙地への草方格の建設

ウーランアオジュ村には新しい国道が通り、交通の発達とともに近代化の波が村にも押し寄せている。村の若者の多くが農外に職を求めて村を出ており、農牧畜で豊かになろうとする若者が少なくなっている。

2. 活動報告

青樹会の活動は次のとおり。

(1) イベント・打合せ等の活動

年月日	活 動	会報掲載
25/3.24	春の緑化ツアー説明会。8名参加。	88号
4.28~5.3	春の緑化ツアー(ウーランアオジュ村、通遼)催行。5名参加。	89号
5.25	春の緑化ツアー報告会+総会開催。14名参加。	89号
6.30	夏の緑化ツアー説明会。7名参加。	90号
8.6~8.12	夏の緑化ツアー(ウーランアオジュ村、北京)催行。4名参加。	91号
8.31	夏の緑化ツアー報告会開催。9名参加。	91号
26/1.25	映画「故郷の香り」鑑賞会と新年会開催。9名参加。	92、93号
2.24	役員会を開催。3名参加。	
2.27~3.1	沈陽打合せ 日本側5名、村人3名、中国科学院2名	93号

(2.) 会報の発行(6回)

No88 (25.4.24 発行)、 No89 (25.6.3 発行)、 No90 (25.7.8 発行)、 No91 (25.9.27 発行)、

No92 (25.12.18 発行)、 No93 (26.3.19 発行)、

3. 収支決算書(会計報告)

1. 一般会計

(円)

区 分		金 額	備 考
前年度繰越金		395,708	
収 入	会員会費	150,000	50名分
	協賛金	30,000	日洋航空
	募金	92,000	募金9名、雑収入
	受取利子	63	
	2014年会費前受金	15,000	5名分
	2014年募金前受金	10,000	2名
	計	297,063	
支 出	研究会立替金支払	380,420	24年度会場費、会報費用
	通信費	1,000	切手ほか
	雑費	2,690	
	計	384,110	
収支差額		-87,047	
次年度繰越額		308,661	

2. 緑化募金会計

(円)

区 分	金 額	備 考
前年度繰越金	465,000	
当年度収入	0	
当年度支出	0	
当年度収支差額	0	
次年度繰越額	465,000	

3. 現金預金残高照合

(1) 年度末残高: (+) 773,661 円

(2) 残高照合(2014.3.31) (円)

区 分	金 額	備 考
現 金	107,140	
郵便貯金口座	626,521	26.3.31 残高(別添写しA)
郵便振込口座	40,000	26.3.31 残高(別添写しB)
合 計	773,661	+ +

<会計監査報告>

私たち監事は青樹会の平成25年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の会計監査をいたしました。収入の部、支出の部いずれも適切に処理されておりますことを確認いたしました。以上、会員の皆様にご報告申し上げます。

平成26年6月10日

監事 埼玉県三郷市早稲田1-25-2 丸山和也(印)

千葉県我孫子市泉28-7 中村千由(印)

<平成26度(2014度)会務方針> 2014.4.1~2015.3.31

1. 概要

20年の長きに亘っての烏蘭菟都村での緑化活動は一定の成果を見た。「我々の活動が沙漠緑化の何らかの起爆剤になったのでは」と言った自己満足的と思われそうな評価の仕方には間違いはないものと確信される。

青樹会会報 No.95 (2014. 7. 26)

過疎化、若者不在の老人と子供だけの村に、日本からの支援が無駄にならないように、青樹会が村で今後、どのような支援や事業を行うことが可能なのかについて、意見集約し結論を見出さなければならない。

2. イベント・打合せなどの開催

項 目	期 日	参加者数など	会報掲載
オーサースカフェ講演(相模原)	4/5(土)	31名参加	94号
2014春ツアー説明会	4/6(日)	9名参加	94号
2014春ツアー	4/28(月)～5/4(日)	6名参加	94号
さがまちカレッジ講演(相模原)	6/1(日)	20名参加	95号(予定)
総会、春ツアー帰国報告会	6/15(日)		95号(予定)
2014夏ツアー説明会	6/15(日)		95号(予定)
2014夏ツアー	8/3(日)～10(日)		
蒋先生来日	8月下～9月上?		
2014夏ツアー帰国報告会			
幹部会合			
瀋陽での打合せ			
2015新年会			

3. 収支予算書(予算計画)

1. 一般会計

2014年4月1日～2015年3月31日 (円)

区 分		金 額	備 考
前年度繰越金		308,661	
収 入	会員会費	150,000	50名分
	協賛金	30,000	
	募金	20,000	
	受取利子	100	
	計	200,100	
支 出	通信費	100,000	会報送付等
	会場借料	60,000	
	研究会立替金支払	133,670	2013度通信費、会場借料
	雑費	40,000	ツアー土産代ほか
	計	333,670	
収支差額		-133,570	
次年度繰越額		175,091	

2. 緑化募金会計

区 分		金 額	備 考
前期繰越金		465,000	
収 入	募金収入	0	
	計	0	
支 出	緑化費用	150,000	水田防風林設置費
	青樹会記念誌	250,000	活動の記録冊子作成。250部×1000円
	送料	21,600	青樹会記念誌送付。180人×120円
	計	421,600	
収支差額		-421,600	
次年度繰越金		43,400	
2014年度期末残高		218,491	

4. 役員名簿(案)


1.会 長	西 敬史	自由業
2.副 会 長	押田敏雄 中村民夫	麻布大学獣医学部教授 団体職員(事務局長)
3.事務局長	押田敏雄	
(代行)		
4.監 事	丸山和也 中村千由	丸山国際法律特許事務所所長 農政ジャーナリスト
5.評 議 員	神尾由恵 堀口恵子 大岡 興 石川和子 立野恵子	元イオン環境財団事務局長 東京農業大学客員教授 獣医師 イラストレーター
6.参 与	窪田定一 磯田隆弘 磯 日出夫 野上剛志	会社役員 都立調布北高等学校教諭 磯動物病院院長 座間市教育委員会

3. 「さがまちカレッジ」での講演 

会報 94 号でもお知らせしましたが、去る 6 月 1 日に麻布大学にて講演会が開催され、押田先生が講演をされました。このカレッジは、いわゆる市民大学的なイベント的なもので「さがまちコンソーシアム」という公益社団法人がコントロールしています。講演テーマは「沙漠化を防ぎ、生活を豊かに」でした。

当日は麻布大学のオープンキャンパスも行われており、約 10 名が受講されていました。なお、会からは野上さんが受講されました。



4. お悔やみ 

我々が尊敬・敬愛していた中国科学院瀋陽応用生態研究所教授・南寅鎬先生が去る 7 月 12 日に永眠されました。享年 82 歳でした。蔣先生からのメールで発覚しましたが、詳細は不明です。

南先生が瀋陽の研究所の教授でご活躍であったことが、我々が烏蘭敖都村で緑化ボランティア活動を行うキッカケとなったことを知らない会員も沢山います。

今夏、ステーションで慰霊の会を催すことが出来ればと考えています。ご冥福を祈ります!!



南寅鎬(1932 ~ 2014)

5. 会員からのたより



桐山一人

< 中国情報 >

■ 中国からベトナムへが、アセアンシフトの24%強を占めている！

中国からASEANへの移管(107件)も13.7%占めている。また、拠点・機能の再編動向を経年で比較すると、中国からの移管の割合が大幅な増加傾向にある。

一方、移管先としては中国が減少傾向、ASEANが増加傾向にあり、日本企業の海外における拠点再編において、中国からASEANへのシフトが鮮明に表れた結果となっている。ジェトロのアンケートで、中国に対する今後(3年程度)のビジネス展開(貿易・業務委託・技術提携・直接投資を含む)について聞いたところ、「既存のビジネスの拡充・新規ビジネスを検討する」との回答が24.8%(861社)、「既存のビジネス規模を維持する」が19.0%(661社)、「まだ分からない」が18.5%(642社)を占める一方、「中国ビジネスは縮小して他国への移管を検討する」が5.2%、「中国ビジネスからは撤退して、他国での展開を検討する」が1.1%と、合わせて6.3%(226社)の企業が縮小もしくは撤退を検討していることが明らかになった。

その理由については、「生産コストなど製造面で他国・地域より劣るから」が46.5%(105社)で最も多い。生産コストの中でも、とりわけ人件費の高騰については、中国に拠点を有する日系企業の間で最大の経営上の課題として認識されている。

■ 中国、増値税の税率を3%に一本化！

中国国務院の承認を経て中国財政部、国家税務総局は先般、7月1日から増値税(付加価値税)の税率を調整し、これまでの6%と4%の2本建て税率を3%一本化すると発表した。今回の増値税税率の一本化は中国政府の構造的減税、特定分野向け財政支援の一環である。専門家は「この措置で、徴税手続きが簡素化されただけでなく、中小企業の税負担も軽減される」と指摘する。今後、中国政府は税負担の軽減を目指し、営業税の増値税移行の試行範囲の拡大でも新たな措置を講じる可能性があると見られている。

■ 日本の対中投資、関係悪化で激減！

中国商務部によると、「主要国・地区の対中投資は全体的に安定増を維持した。そのうち韓国は87.9%増、英国は62.2%増と伸び率が高かったが、日本は前年同期比42.2%減と米国も9.3%減になった」という。・・・日本と同じく中国のコスト高騰の影響を受けたと見られる。

専門家は「これは主に日中関係の悪化、中国の人件費およびテナント料の高騰の影響によるもので、日本企業の中国事業拡大の積極性が低下した」と伝えた。“沈報道官”は中日関係の悪化の影響について、「両国の政治関係が持続的に悪化しており、両国の経済協力環境の悪化を招いている。これは経済・貿易関係の後退を引き起こす可能性があり、双方の利益に合致しない」と指摘した。国・地域別に見ていくと、ASEANの投資額が22.3%減、EUが22.1%減と大幅に減少した。

■ 中国の離婚率、1年で350万組に！

中国民政部が発表した「2013年社会サービス発展統計公報」によると、同年、中国で離婚を申請した夫婦は、前年比12.8%増の350万組で、離婚率は前年より0.03%増の0.26%となり、2004年以降、10年連続の上昇になったという。

中国の離婚率は2004年には0.128%だったが、2010年には0.2%を突破し、2013年には0.26%達した。同年、婚姻登録機関に、婚姻届を提出した夫婦の数は、前年比1.8%増の1346万9000組だった。

<立野さんの新刊:グーグーバイキング>

立野恵子さん(ペンネーム:たちのけいこ)が新しい絵本を出しました。

無人島に住む4匹の猫、パクパク、モグモグ、パリパリ、ポリポリは、いつもはらぺこ。なぜなら、島では、1年に2つか3つだけ実がなる木が1本あるだけで、魚もめったにつれず、食べるものがほとんどないのです。そこで4匹は、おいしいものをさがしに旅に出ることにしました。自分たちで船をつくり、海へ!いざ出発です~



この本は、絵本から読み物への橋渡しにお勧めの「おはなしみーつけた」シリーズ。小学校低学年の子どもたちが自分で読む初めての読み物としてぴったりです。お話のラストにはとっても美しい星空の景色も広がっているので、最後までお楽しみ下さいね。(佼成出版社:1,200円+税)

<タダで貰えるかも:食肉のすべてがわかる Q&A 教えて!食肉の流通・加工>

中村民夫さんが勤めている公益財団法人・日本食肉消費総合センターでは各種の事業を行っています。その中で啓蒙用の資料の作成も行っています。本冊子は学校給食関係者用に作成したのですが、一般の方が読んでも食肉に関する知識が沢山詰まっています。食肉に関する疑問をQ&A方式で分かりやすく解説しているのが特徴でしょう。著者は押田敏雄、坂田亮一、森田幸雄の各氏であるが、斯界の専門家のラインアップである。

売りものではないので、資料として一般の方も希望をすれば分けて貰えると思います。(日本食肉消費総合センター/e-mail: consumer@jmi.or.jp/☎03-3584-0291)



<押田先生の最新刊:ブタの科学>

家畜の科学シリーズはウシ、ブタ、ヤギ、ニワトリ、ヒツジ、ウマの6冊から成り立っていますが、ウシに続いてブタが2014年3月に発行されました。押田はこのうち、12章の「養豚の環境問題と糞尿処理」について担当しました。

専門書ですが、その分野に興味のある方にとっては、一冊でその家畜を学べる本と言えます。是非、お手に取って見て下さい。有名書店には並んでいると思います。(朝倉書店:定価4,000円+税)



6. 「ステーションの建物」が完成



蒋先生からの連絡によれば、待望久しかった烏蘭敖都村にある我々がステーションの新しい建物が完成しました。この新しい建物(呼称は不詳)には多くの個室(2人用)がメイン、会議室、食堂などがあります。また、周辺の整備も行ったようです。



なお、今までの食堂があった建物はすべてを取り壊したようですが、写真の左側の隅までは確認出来ません。

8月のステーション滞在が楽しみです!!

7. 「2014 夏ツアー帰国報告会」を開催



今夏のツアーは8月3日～10日での催行が決定しています。帰国報告会ですが、以下のように開催致しますので、各自の予定に入れて下さい。なお、会場は「八重洲倶楽部」が新装になりましたので、そちらで行います。参加予定者は8月23日(土)までに下記の押田宛か日洋航空(担当：樋川)へ

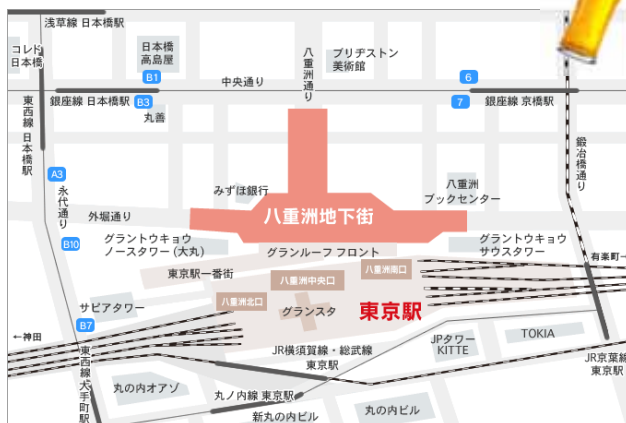
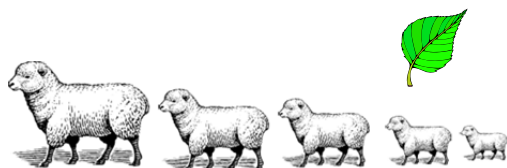
押田：Tel:042-769-1641、Fax:042-768-2612、e-mail:oshida@azabu-u.ac.jp

樋川：日洋航空 Tel: 0120-342315、Tel: 03-5774-5781、Fax: 03-5774-5783

イベント終了後に懇親会も行いますので、併せてご参加をお待ちしています!!

(懇親会場は未定です)

8月30日(土)午後3時～
八重洲倶楽部第7会議室



八重洲倶楽部

住所: 東京都中央区八重洲 2-1 八重洲地下街中 1号

Tel 03(3275)0801 Tel 03(3275)11061

<交通の便>

JR各線 東京駅 八重洲地下中央口 徒歩3分

東京メトロ丸の内線 東京駅 八重洲北口 徒歩4分

東京メトロ銀座線 京橋駅 6.7出口 徒歩4分

東京メトロ東西線 日本橋駅 A3/B1/B3出口 徒歩3分

東京メトロ東西線 大手町駅 B7・B10出口 徒歩約4分